



発行所 支店 天理教徳島教務支店
TEL (088) 654-3877
FAX (088) 654-3899
編集 あわのみち編集部
印刷 原田印刷出版(株)

立教百八十六年 年頭挨拶



岩佐円秋教区長



立教百四十年祭

立教百八十六年の新春を皆様方と共に晴れやかに迎えさせて頂き、心よりお慶び申し上げます。

昨年中教区管内の皆様方には、長引くコロナ禍にもかかわらず、教区、支部活動の上にも苦心工夫をしながらお励み頂き、御尽力いただきましたこと心より御礼申し上げます。昨年は、年頭会議において真柱様より「道を伸展させるためには、いろいろな意味において、教祖の年祭をつとめることは大切なことであると思えますので、次の教祖百四十年祭はつとめさせていたいただきたいと思っております。」とお言葉を頂き、

秋季大祭に論達第四号を御発布下さいました。そして、その後のお話の中で「年祭をつとめる意味は変わりません。しかし、時の流れとともに、年祭をつとめるたびに、つとめる人の顔ぶれは多少なりとも変わっていくのであります。その中には当然のことながら、年祭の意味を知り、そして、どういう気持ちで勤めるのか分からない人もいますのであります。全教が心をそろえるためにも、知らない人は年祭の意味を知り、そして、をやる思いに添わせてもらおうと積極的に歩む、そういう気持ちになってもらう。その為の材料として、この論達を利用してもらえればいいかと思えます。」と仰いました。

今年はいよいよ教祖百四十年祭への三年千日の年祭活動に入ります。年祭活動についてのおさしづを拝させて頂く、わずか三年とはいえ実際にしっかりと通することは簡単ではないだろうと仰っているように感じます。しかし、御存命の教祖を頼りに何とかと通りきることができれば、信仰者としての陽気ぐらしの土台ができると思っております。教区支部においても、「全教の心をつとめた」とのお言葉にお応えできるよう声を掛け合い、励まし合い、たすけ合いを實行して、お互いが御恩報じの意識を高め、おたすけ活動を広げて、人材育成、丹精の充実を図らせて頂くような年祭活動を展開させて頂きたいと願う次第です。

皆様方のご健勝とお道の活動の上での活躍を、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

創立130周年記念祭

11月6日、名東大教会（柏原信弘会長）では、創立130周年記念祭を執行した。

世話人吉川万寿彦本部長、撫養大教会長夫妻、撫養前会長夫妻、分離の防府、周東、国名大教会長夫妻を来賓に迎え、午前10時より執行。大教会長の祭文奏上の後、真柱様からのメッセージを世話人が代読した。そして、一手一つに陽気なおつとめを勤めた後、世話人の祝辞、柏原会長の御礼の挨拶とあり、神殿で記念写真を撮って終了した。参拝者に対しては弁当と記念品を



名東大教会 世話人がメッセージを代読



南阿次教会 晴天のご守護のもと執り行われた

配布し解散となった。また、11月20日、南阿大教会（岩佐円秋会長）でも、創立130周年記念祭並びに神殿増築及修築並屋根葺替奉告祭が執行され、真柱様からのメッセージを世話人増井幾博本部長が代読した。

おつとめ後、挨拶に立った岩佐会長は「皆様方と共に御存命の教祖にお喜びいただけよう、改修によって明るくなった神殿に相応しく、一手一つに成人の歩みを明るく勇んで通らせて頂きたい」と決意を述べた。両大教会とも、感染防止対策を十分に施した上で執り行われた。

音の渦

先日、弟が転居した天理のアパートに、妻と子供たちが招待され遊びに行つた。私は、所用があつたため、後で妻から様子を聞いたのだが、不思議なことがあつたという▼弟の欲待を受け楽しんでた子供たちだが、4歳の娘がふいに、「ねえねえ、この家には神様おらんのか？」と弟に聞いた。まだ弟の家には神様をお祀りしていないので、「いないよ」と弟が応えたと、その娘は「神様に守ってもらわなくて怖くないの？」と言つたらしい▼朝夕のおつとめや参拝も気分次第でできないような娘の言葉に、「あれは神様が娘に言わたんだと思う」と妻が話してくれた。聞いた直後は「まさか」と思つた私だが、忙しくしている弟と信仰について語り合うことを遠慮していた自分を「たしかにそうかもしれない」と反省した▼先日御発布いただいた論達第四号では、結びに「信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが末代へと続く道となる」とお記し頂いている▼年明けと共に始まつた年祭活動は、自分や身内、信者さん家庭に改めて丹精の目を向け、それぞれの信仰を深める「成人の旬」であるのだと、娘を通して教えていただいた。

(B)

各支部で母親講座

10月30日、板野支部(岩佐めぐみ主任、三木ゆかり担当者)では、板野分教会で母親講座が行われ、教祖伝逸話篇117「父母に連れられて」を拝読し、様々な意見交換の中で、「子供たちと共に教会に足を運び、周りの人たちにたすけられながら子育てをしてい



和やかな雰囲気の中で(板野支部)



ねりあいの様子(海部支部)

ましよう」と話を締めくくって閉会となった。参加者は大人11名、子供9名であった。11月12日、海部支部婦人会(西村チミ子主任、中崎明美担当者)でも8名が参集して牟岐分教会で行われ、最初に論議を拝読した後、主任より挨拶があった。続いて、「みちのだい」を読んだの勉強会、また昼食を取りながら、ねりあいで親睦を深め、有意義な講座を終えた。

支部ひのきしん



2年ぶりの草引きひのきしん

那賀支部(島上幸一支部長)では、11月4日午前9時30分から約1時間、障害者支援施設「淡島学園」の草引きひのきしんを行った。当支部では長年の間、年2回定期的にひのきしんを行っていたが、コロナ禍により2年間中止となり、再開はもうしばらく先と思っていたところ、園の方からは是非お願いしたいとの要望があり、この度実施の運びとなり、約30名が参加した。

第23回東日本大震災復興義援金バザーを開催

徳島西支部婦人会(齋藤さよの支部主任、西田美晴母親講座担当)では、第23回東日本大震災復興義援金バザーを、10月30日から11月6日までの8日間に亘って、入田分教会を会場に行い、250名余りが来会した。



所狭しと並んだバザー一品

バザー初日が3年ぶりに行われた町内のお祭りと同重なり、



今回も盛況でした!

新任教会長紹介

和嶋分教会

海部支部(阿羽部属)

中崎 明美 氏



昭和25年10月28日生。令和4年10月26日、天理教和田島分教会五代会長拝命。令和4年12月11日就任奉告祭。

お出直し

名宮分教会三代会長

菅條 真一 氏



菅條真一氏(徳島市北支部・名東部属)が12月12日出直された。享年72歳。みたまうつしは、12月15日

献血呼び込みひのきしん

- *徳島市北支部
 - 11月27日(日・午前&午後)
 - 於: 献血ルームアミコ
 - ひのきしん者数 5名
 - 献血受付者数 62名
- *勝浦支部
 - 12月15日(木・午前)
 - 於: 勝浦町人形文化交流館
 - ひのきしん者数 2名
 - 献血受付者数 10名

1月教区例会
1月30日(月)10時45分
於: 教務支庁

※例会終了後、地方委員会が開催されます。

午後5時から、告別式は12月16日午前8時30分から、いずれもホワイトリース・レンタルハウスにて、元木保・田宮分教会長齋主のもと、厳かに執行された。氏は、徳島市北支部長、地方委員、また、布教の家徳島寮の副寮長を平成15年から3期務められた。そして、平成10年から19年まで代表社友を3期、平成22年から28年まで広報部次長を務められ、あわのみち編集にご尽力下された。